

社会教育委員ニューズレター 第19号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
 事務局 佐賀県民環境部まなび課内

県社教委連第1回理事会

5月21日、年度初めの理事会を開催しました。

協議事項として、令和6年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員案、令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度活動方針案、令和6年度事業計画案及び収支予算案等について協議し、総会に諮る事が決定されました。

「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰」については、1名の方の表彰が決定されました。

また、令和5年度の協議会の「活動方針」の取組状況の報告を行い、教育委員と社会教育委員の意見交換や学校教育と社会教育の連携などの各市町での取組状況について確認し、過去の状況も含めて総会で報告することとなりました。

令和6年度 佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役職	氏名	所属	地元での活動等
会長	上野 景三	佐城（佐賀市）	社会教育委員長
副会長	山口 ひろみ	県社会教育委員	子育て支援
副会長	緒方 哲哉	唐松（唐津市）	社会教育委員
理事	古川 勲	三神（吉野ヶ里町）	社会教育委員長
理事	田口 英男	杵西（江北町）	小学校PTA会長
理事	川下 武則	藤津（太良町）	社会教育委員長
監事	藤丸 信一	三神（基山市）	社会教育委員長
監事	納 富 弘明	三神（みやき町）	社会教育委員

県社教委連総会

6月4日、アバンセホールにおいて開催しました。

○開会行事

上野会長から、「人生百年時代、私たちを取り巻く環境は変化を続けており、社会の変化に対応していくためには一人一人が力をつけていく、エンパワーをつけていくことが求められる。」などの挨拶がありました。

また、佐賀県民環境部の居石副部長が来賓の祝辞の中で、日頃の委員活動に対する感謝等を述べられました。



○県社教委連表彰

平成30年度から創設した標記表彰について、今年度は1名の方を表彰しました。

***受賞おめでとうございます。**

鳥栖市 中尾 勇二氏（10年）

（ ）は、社会教育委員在任の期間

【表彰基準】

社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった者



○議事

議長に選出された玄海町の平山委員長の進行のもと、次の4議案について審議され、異議なく承認されました。

第1号議案

令和5年度事業報告及び決算報告並びに監査報告について

5年度の支出は、実践研修会の講師謝金の辞退や全国社会教育研究大会及び九州ブロック研究大会宮崎大会の旅費等の減により予算と比較し約18万円少なくなりました。一方、収入は約2千円増えました。収入のうち、基金から10万円繰り入れました。

実践研修会を1月に開催し、多くの社会教育委員や行政職員の参加がありました。

池田監事から監査報告が行われ、適正に処理されていたことが報告されました。

第2号議案

令和6年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員について

総会資料7頁の表のとおり令和

6年度の役員が承認されました。

第3号議案

令和6年度活動方針案について

今年度の活動方針案については、次のとおりです。

引き続き、昨年度と同じ方針案になっています。

※1番目は、佐賀県社会教育委員の会議の提言内容に沿った方針案になっています。

《令和6年度活動方針》

- 一 社会教育委員は「地域の学校」「地域で育てる子ども」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めよう。
- 二 ニューズレター年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。
- 三 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。
- 四 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

第4号議案

令和6年度事業計画並びに予算について

10月に全国社会教育研究大会茨城大会、11月に九州ブロック社会教育研究大会鹿児島大会、1月に県社会教育委員実践研修会が開催予定です。

基礎研修会

総会終了後、基礎研修会を開催しました。

まず、上野会長が「社会教育委員の基本的な役割」について、役員になる一般的な背景や法律的な規定など新任の社会教育委員にもわかりやすく説明されました。

社会教育委員は、社会教育法で市町等へ置くことができると規定されていますが、社会教育に関する補助金の審査があり実質的には必置となり、教育委員会が委嘱します。

社会教育委員の職務は、社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に応じ意見を述べること、これらのために研究調を行うことなどがあります。

社会教育委員はいろんな団体活動に参加されており、その団体の

会議等の話を取りまとめ自治体へ伝えていく、住民自治にしながら団体自治に対して意見を伝えるという基本的な役割があります。当連絡協議会は、会員からの意見をもとに、佐賀県社会教育課題への取り組みや教育委員との意見交換の機会を設定などを活動の方針としています。



■トークセッション

【コーディネーター】

○上野景三さん

西九州大学副学長

○山口ひろみさん（進行）

NPO法人唐津市子育て支援
情報センター長

【パネリスト】

○稲葉ゆう子さん

鹿島市社会教育委員

○辻田正信さん

嬉野市社会教育委員

○川崎富雄さん

白石町社会教育委員

【テーマ】
地域課題の解決に向けて社会教育委員等に期待されるもの

コーディネーターに上野会長、山口副会長、パネリストに鹿島市社会教育委員の稲葉ゆう子さん、嬉野市社会教育委員の辻田正信さん、

白石町社会教育委員の川崎富雄さんをお迎えして、約1時間半にわたってトークセッションを行っていただきました。

それぞれの発言の要旨については、次のとおりです。



社会教育委員になった
きっかけ、活動など

（稲葉）21年前、子育て真っ最中に、町おこしの先輩から引き継ぐ形で社会教育委員になった。芸能活動を行っており、鹿島市浜町が

活動の中心。奉納舞踊に参加し、町おこしをしている。観光列車のおもてなしにも参加している。小学校での読み聞かせ活動がライフワークとなっている。

また、にわかのお芝居を通して、地域の皆さんに楽しく喜んでもらいながら、ニセ電話詐欺防止やネット社会における子どもたちの犯罪防止などの啓発活動の一端を担わせてもらっているのではないかなどと思っている。

（辻田）昭和43年から社会教育に携わっている。レクリエーション上級指導者の資格を取り、平成26年に社会教育委員となった。ほとんどがボランティアとなるが、いろんな活動を行っている。市内の小学校4年生に「心のバリアフリー」の授業と、車いすテニスの体験、高齢者の疑似体験などの体験学習の授業を行っている。毎回子どもたちからアンケートをもらうが、その中でも「高齢者の大変さがわかった」という感想や「これからは困っている人には優しくする」という感想があった。

（川崎）白石町には8名の社会教育委員がいる。令和5年度には教

育委員と社会教育委員の意見交換会を行った。主な活動は小中学校においては、読み聞かせや野菜づくりなどを行っている。

社会教育委員として30年が経過。小学校のPTA会長をしていたときに、役場の職員から「社会教育委員もお願いします」と頼まれ、引き受けたことがきっかけ。今では「ふるさと先生」として、小学校のゲストティーチャーとして、学習活動を行っている。

白石町のコミュニケーション構想の取り組みを紹介。合言葉は「ひつきやでしゅい」。

社会教育委員になって
うれしかったこと

（稲葉）鹿島市でたくさん活動して、多くの人と出会えているんなことがあって、すべてが楽しかった。佐賀弁で各地域をまわり、様々なテーマでお芝居すると最後はみなさんが笑顔になった。

ニューズレターを書くにあたり、今までやってきたことを振り返ると、あれもこれも社会教育だ

つたと再認識できた。

(辻田) 子どもたちと接することで子どもたちから元気をもらっている。子どもたちに「まーくんと呼んでいいよ」と言ったら、「まーくん」と呼ばれるようになり、年齢関係なく子どもたちが接してくれるようになった。ありがたいと思う。

(川崎) 小学校では子どもたちから「トミー」と呼ばれ親しまれている。子どもたちから「思い出をありがとう」といった感謝の手紙をもらった。それが宝物。

学校教育と社会教育の連携 で大切なこと コミュニティスクール活動 について

(稲葉) 小学校と高校に関わり、地域連携を勉強中。高校生が地域に出向いて、イベントを手伝い、地域の方々とふれあったり、小学校に出向いて、勉強を教えるなどの活動を行っているという報告を聞いている。町内でも子どもたちに声掛けを行うなど、地域の方々の意識が高まってきていると感じ

る。

災害が起こった時に生き抜くためのプログラムを考えており、地域のみなさんが楽しく学びながら災害時のスキルを身につけられたらと思っている。そういうときこそ、学校教育と社会教育の連携になるのかなと思う。

(辻田) 小学校、中学校のコミュニティスクールに関わっている。小学校区域に地域コミュニティというのがあり、いろんな活動を行っている。市内の小中学校で自転車に乗っている子どもたちは、横断歩道を渡るときは必ず自転車から降りて自転車を引いて渡ったり、観光客に挨拶をしたりして、市を訪れた観光客が喜ばれている。自然とそういう子どもたちが育っているのは、コミュニティスクールに取り組んできた成果だと感じる。学校も地域に恩返ししていこうと、地域の方を学校行事に招待したりゴミ拾いなどの活動に取り組みだりしている。

防災に関心があり、防災士の資格を取った。自治会長をやっていた時に防災時に周りの人を支援する側のリストを作った。熊本地震

で子どもたちが支援される側ではなくサポート側にまわっていたのをみて、小学生高学年、中学生、高校生は支援する側のリストに入れた。子どもたちにはそういう力がある。

(川崎) 北明小学校では、コミュニティスクール便りという広報誌を作成している。その中で各学年の取り組みを紹介している。地域の方に学校に来てもらって、「昔遊び」を教えてもらったり、商業、農業に携わっている方に学校に来てもらい、子どもたちがインタビューしたりして、子どもたちとふれあってもらっている。地域の方に学校は敷居が高くないと分かってもらってきている。

今年初めて教育委員との会議を開催した。互いの活動内容について話し合っていくと、来年も子どもたちのために会議を開きましようということになった。

メッセージ

(稲葉) トミーとまーくんの貴重な話が聞けて感銘を受けた。社会

教育委員がそこにいるということが大事。社会教育委員は地域にどっぷりとつかう。地域を愛する心を育てるためのお手伝いをするのが社会教育委員ではないかということを感じた。

(辻田) 地域コミュニティとかコミュニティスクールとか婦人会とか青年団とかいろんな活動をする組織があるが、すべての活動、思いをつないでいくのが社会教育委員なのではないかと思う。

今年初めて社会教育委員になられた方は一緒にやっていきましょう。

(川崎) 北明小コミュニティスクールには5star、かがやきプロジェクトがある。縦は30代から70代までのつながり、横はstudy(学習支援)、safety(安全確保)などのつながり、斜めは各種団体のつながり、それぞれのつながりをつかりやって助け合っていきたい。



まとめ

(山口) 社会教育は、人づくり、つながりづくり、地域づくりの循環を生み出している。3人の方々は、人づくり、つながりづくり、地域づくりをされているんだと実感した。

今日の話聞きながら、未来を創るのは、人、人をつくるのは教育、これこそ社会教育なんだと3人の方々の活動を聞いてそう感じた。

(上野) 社会教育は自分の活動が広がる、自分の世界が広がる、自分にとって意味がある、プラスになる、だから楽しい。

学校との連携(コミュニティスクール)といえ、小学校、中学校を考えてしまいがちだが、今回高校の話がでた。子どもたちを、小学校、中学校、高校、そして地元へとどう定着させるのが社会教育の制度だと受け止め、学校教育との連携を考えていく必要がある。

防災教育は大事。個人単位や家庭単位の防災意識の中に、隣の子どもたちや高齢者のことがどれだけはいっているのかを考えあうのが社会教育の役割なのではないか。

アンケートの内容

基礎研修会終了後に御記入いただいたアンケートでは、委員も職員もほとんどの方が参考になっ

たという回答をいただきました。その一部を掲載します。(構成上、記載内容を要約しています。)

(基礎講座)

- ・今年度初めて社会教育委員となり、その職務がわかった。
- ・社会教育委員の基本的な役割について、明確に説明いただいた。

(トークセッション)

- ・発表者の方々がそれぞれ社会教育委員として地域の人、周囲の人をまきこんで活動を広げていることに感心した。
- ・すばらしい社会教育委員が活動されていることを知って、自分のやる気につながった。
- ・たくさんさんの社会教育委員さんのお話は活動の支えとなる。
- ・他町での社会教育委員の活動の取り組みがわかり、これからの関わり方の参考になった。
- ・子どもたちの成長の手助けをされていることに感心した。
- ・パネリストの方の話聞き、地域の中で自分に何ができるのかを考えさせられた。
- ・子どもたちのことをとても大切に

に思い、活動してくださっていることに感謝。

- ・各地区の方々の長年にわたる活動実践を知ることができ、大変勉強になった。
- ・地域において、これからを担っていく子供たちへの関わりが大事だと再認識できた。
- ・地域コミュニティの大切さを実感した。

- ・社会教育委員になったばかりでどんな活動があっているのかという点で参考になった。

(今後の活動等)

- ・教育委員と社会教育委員が今後の活動を一緒に実施できるように工夫していきたい。
- ・子どもたちが地元を誇りに思えるような地域づくりをしていきたい。
- ・「活動方針」にもあるように、少しでも学校教育と社会教育の連携が取れるように努力したい。
- ・世代間交流は大事。今後は教育委員との交流を強めたい。

**第66回全国社会教育研究
大会茨城大会 概要予告**

開催趣旨の概要

私たちには、地域において子ども
の健全な成長を支援するために、
世代や立場を超えたつながりを生
み出し、子どもを取り巻く問題の
解決に地域ぐるみで取り組んでい
けるような社会教育のあり方につ
いて検討し、実践していくことが
求められています。

そのような中、全国各地から社
会教育関係者が集まり、子どもた
ちを取り巻く様々な問題を考察し、
解決を目指した実践活動について
協議を重ね、より充実した実践を
目指していきます。

大会スローガン

彰往考来、人をつくり、人をつ
なぎ、地域をつくる。未来の社会教
育、

研究主題

誰一人として取り残さない社会を
目指す社会教育のあり方、子ども
たちの健全な成長を支える、

期日

令和6年10月24日(木)
全体会

令和6年10月25日(金)

分科会

- ① 地域と学校の連携・協働
- ② 家庭教育の充実支援
- ③ 若者の主体的活動の促進
- ④ 社会的包摂の実現
- ⑤ 社会教育委員の役割

会場

水戸市民会館

**第54回九州ブロック社会
教育研究大会鹿児島大会
概要予告**

開催趣旨の概要

未来に向けた社会教育の実践
が、各県のこれからの社会教育委
員の活動と社会教育の広がり、そ
して地域における自治と協働の力
の育成、個人と地域全体の幸福に
つながることを考える契機とする。

大会テーマ

未来に向かう社会教育の風は南か
ら、自治と協働の力を育む、これ
からの人づくり・つながりづくり・
地域づくり、

期日

令和6年11月7日(木)

分科会

- ① 社会教育委員と地域コミュニ
ニティのかかわり
- ② これからの未来を担う人づ
くり
- ③ 多様な主体と連携したつな
がりづくり
- ④ 世代がつながる地域づくり

令和6年11月8日(金)

全体会

会場

かごしま県民交流センター
鹿児島市中央公民館



わたしの社会教育委員活動

「多久っ子の見守りと積極的な
関わりを」

多久市 社会教育委員

佐山 光芳

北に秀峰「天山」を仰ぎ見、南
を振り向けば「鬼の鼻山」。東方に
は「両子山」。そして、西方を見れ
ば「肥前天婦富士」の「八幡岳」
に「船山」がそつと寄り添うよう
な容姿の自然地形の多久盆地があ
ります。

そんな多久市には、元禄十二年
に多久茂文公が建て、一般の百姓
や町民の庶民も入学が許された学
校「東原岸舎」があり、約三百年
経った今も、研修の場として利用
されています。工学博士の志田林
三郎、炭鉱技術者で実業家の高取
伊好に儒学者の草場佩川・船山親
子や測量技師で機器メーカーKE
NT(内田洋行)の創始者である
内田小太郎などの偉人を輩出した
学舎です。

現在、市内には、その名をいた

だいた義務教育学校の「東原岸舎西溪校」、「東原岸舎中央校」、「東原岸舎東部校」があり、各校それぞれに特色を生かし、教職員、保護者、地域の方の三位一体で連携し運営されています。

私の地元校である中央校では、登校日の朝は多くの人が児童達の見守りをおこなっており、私も交通指導員として近隣の交差点に立ち、徒歩や自転車で通学する際に声かけ見守りをおこなっています。



通学路の見守りの様子

また、校門前では校長先生をはじめとして、生徒会役員や保護者、民生児童委員の方々があいさつ運動で迎えて、見守り活動をしています。私は、昼休み時間帯にも、校庭で遊ぶ子ども達の安心安全を見守っています。

義務教育学校の体育祭は、七年生から九年生が準備から片づけを

先生達の指導を受けながら行い、一年生から六年生と一緒に競技や団体の応援も心をひとつに揃えて盛り上げています。

多久の夏祭り「多久山笠祭」の伝承でも、学校で地元役員から指導を受けて練習し、本番では大人と一緒に祭りを盛り上げてもらっています。

市内三校の交流行事として、夏休みの教育キャンプが行われ、また、春夏秋冬に多久を見る学習として、天山登山・聖岳稜線歩きや今出川沢登り・みかん狩りがあります。

今年で四十三回目となる「多久市少年の主張発表会」では、各校代表者の六年生十名、九年生六名が各々のテーマを力強く話されました。今年の発表会では、大人顔負けで多久市の人口増加と未来を話してくれた子どもに私は感銘を受けました。

また、少年の主張発表会に先立ち行われた「多久市青少年育成市民大会」では、未来を担う子ども達を地域で見守り、積極的に関わり、『みんなで伸ばそう！「ふるさと・多久」の子どもたち宣言』と

いう大会宣言が採択されました。この宣言には私も大賛成で、社会教育委員の一人として、一緒に頑張っていこうと思います。

「体験活動で育む地域の青少年」

武雄市 社会教育委員

木寺 圭介

社会教育委員に就任して14年目になりました。私は、武雄市子どもクラブ連絡協議会の会長を長年務めており、体験活動をおして地域の子どもの育む取り組みを行っています。

市子連では、子どもクラブ活動の充実、育成会活動の推進、リーダーの養成を重点目標とし、協議会の活動を推進しています。

具体的な活動としては、地域でのさまざまな体験を通して集団での役割や共同意識を学び、自発性のある明るく心豊かな子どもの育成を図る「自然体験教室（わんぱくスクール）」、学校や地域におけるリーダーの育成を目的としたジュニアリーダー（中高生）育成活動、通学合宿や地域活動の日など

の学校・家庭・地域が連携した子育て環境づくりの推進、育成会活動を各地域で活発化することを目的とした育成者等研修会および安全教育の推進などです。

わんぱくスクールでは、年間10回のプログラムを組み、シニアリーダーの指導のもと、野菜の苗植えから収穫作業、薪割り、飯ごう炊飯、テントの組み立て、キャンプ、カヌー体験、ニュースポーツ体験、ロープワークなど、様々な体験活動を行っています。もちろん、事前にKYT（危険予知トレーニング）を行い、活動に臨みます。

ジュニアリーダーは、毎回、わんぱくスクールに参加してスクールの指導にあたることにより、リーダーとしての自覚と指導力、コミュニケーション能力を身につけ、地域や学校でその能力を發揮してくれています。また、年に2回行う市子連ジュニアリーダー宿泊研修では、自ら企画運営を行い、研鑽に励んでいます。

毎年7月には、長崎県松浦市の青島にフェリーで渡り、真夏の暑い中に親元から離れて、2泊3日



わんぱくスクール（キャンプ）の様子

子どもたちを健全に育むため

の宿泊キャンプを行います。汗だくになりながら、みんなで協力してテントを組み立て、薪を割って火をおこし、班別に飯ごう炊飯を行い、共同生活をします。包丁を使ったこともなかった子どもが鈍で薪を割れるようになり、料理をしたこともなかった子どもが飯ごう炊飯をできるようにになりました。日常生活では体験することのない活動を、四苦八苦しながらもやり遂げようとする子どもたちは、お互いに学び合い励まし合いながら、日々成長していきます。

には、異世代交流を基本とした体験活動に勝るものはないと考えています。もちろん、好き嫌い、得手不得手、向き不向き、あるかと思いません。しかし、子どもは成長するものです。助け合い、協力しながら、やればできるのです。

近年では少子化が進み、更には昔に比べて子ども達の活動の場も多様化し、地域子どもクラブへの加入率が低くなるなど、社会教育に対する関心が薄くなっているように感じます。

そのような中だからこそ、社会教育委員としての立場からはもちろん、いち指導者として、いち市民として、社会教育の推進に努めていきたいと考えています。

「スポーツ協会活動を通じた
社会教育のスタートとゴール」
上峰町 社会教育委員
納富淳之

「社会教育委員にも就任をお願いします」と上峰町スポーツ協会の理事長に選任された時の教育委員会担当課長さんからの一言。ほとんどの方が、私と同じように

「あて職」での社会教育委員への関わり合いの「スタート」だと思えます。「今まで聞いたこともない社会教育委員、どのような取り組み、活動をすればいいのだろう」と不安な気持ちでの就任でした。

本町社会教育委員会議のメンバーは、住民や教育に関わり合いのある①分館長会②文化協会③子供クラブ育成協議会④老人クラブ⑤民生児童委員協議会⑥スポーツ協会の6団体と①上峰小学校②上峰中学校の2組織の代表者8人で構成されています。主な活動は、県や鳥栖・三神地区協議会開催の研修会による情報収集、知識習得と同会議での小・中学校からの情報提供による学校教育との連携強化や町で取り組まれる社会教育や生涯学習に関わる「生涯学習事業」、「生涯スポーツ事業」、「文化事業」への提案・助言程度です。本町規模の組織では、委員会会議独自の具体的な方針立案や事業活動を行っている状況までには至っておりません。私は、町民との直接、深く関わり合いのあるそれぞれの団体が目的達成のために活動を展開することが、結果的に社会教育に通じ

るものがあると思っています。

私の所属する上峰町スポーツ協会は、野球、剣道、バレーボール、卓球、バトミントン、陸上ソフトボールなど11競技団体のほか、レクレーション協会、スポーツ少年団の13団体で組織されています。昨年度の登録者は793人、町の人口約9,800人の8%にあたり、町民の12人に1人が登録されていることとなります。年齢は、最高齢がゲートボールとグラウンドゴルフ競技の91歳、最年少はスポーツ少年団の小学校1年生の7歳となっており、年齢差84歳の老若男女で多世代にわたっています。開催されたスポーツ教室は220教室、大会は70大会で、参加人員は延べ4,000人を超えております。その他の県民スポーツ大会出場、町民体力づくりスポーツ大会参加などの一連の活動を通して、礼儀と挨拶を基本とするスポーツマンシップのもと、練習・トレーニングによる健康増進や体力向上、試合・チームプレイでの団体相互の連携協調を図っております。社会教育的な面では、

令和4年度から「上峰から日本全国へ、世界へ国際的に挑戦するアスリートの育成」をかけ声に、ジュニアクラブの育成等による加盟団体の強化推進にも取り組んでいます。

この秋にはいよいよ「SAGA2024」国スポ・全障スポが開催されます。本町においては、国スポのソフトボール少年男子、全障スポのフットソフボールの会場となります。開催まで残りわずかとなった現在、全国から参加される選手方々に、万全な試合環境、手厚いおもてなし、盛大な応援で「上峰はあたたかい町、プレイできてよかった」と言われるように町民一丸となってラストスパートで準備を進めています。私は、48年前の「若楠国体」開催時は、中学1年生でした。その時の県を挙げての熱気のすごさは記憶に鮮明に残っています。本町においても、競技の開催はなかったものの町花サルビアの栽培などのお出迎えや聖火リレーの伴走など町民を挙げての盛り上がりでした。今回の国スポのソフトボール会場は、外野フェンス付きの国際試合ができるようなグラウンドが

設置され、全国トップレベルの試合が展開されます。絶好のチャンス、「記録」に残る国スポではなく、「記憶」に残る国スポに」と、一流プレイを応援・観戦した後に、そのグラウンドを数日間、町民に一般開放してもらい参加して体験してもらおう（仮称）「SAGA2024 国スポ記念ソフトボール大会」を開催できるように全力投球で働きかけを行っています。



SAGA2024 カウントダウンボード

最後になりますが、これまで各種研修会に参加させていただき先輩方の社会教育に関する取組みや優良事例をご教授していただきましたが、その活動は、地域性、組織規模、活動体制などの取り巻く環境がそれぞれ異なっており、本町でも同じ事をまねて取り組もうとしても、うまくはいかないよう

です。ただ、共通していることは地道にコツコツと継続されていることです。私も、今、与えられているスポーツ協会活動のポジションをマラソンのように走り続け、社会教育の一環につながる「ゴール」を目指したいと思います。

「PTA活動を通じた社会教育活動」

江北町 社会教育委員
田口英男

江北町教育施策実施計画に基づき5つの項目を定め、これに沿って活動を行っております。

- 1 「生きる力」を身に付け、バランスのとれた児童・生徒を育て学校教育の推進
- 2 教育活動を支える教育環境の整備・充実
- 3 社会教育・生涯学習の振興、歴史や文化の継承と保存方法
- 4 夢、感動と活力を生むスポーツの振興
- 5 子ども・子育ての支援事業の推進

江北町の教育においては、「多様

な芽が豊かに実る新田園都市」の一環として児童生徒の学力・体力保障、生徒指導の充実等をはじめ町民の健康増進、文化的な教養を高め、豊かで健康な毎日を過ごす町づくりにより教育の果たす役割が大きいものがあり、具体的には次のような活動を行っています。

平成31年4月より導入された学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、江北町総掛かりとなって子どもたちの育成に取り組んでいます。会議の中で小学校や中学校の困りごとを地域の方と共有し、「江北っ子応援団」を組織して、町の人材バンクとして学校の困りごと解消に尽力いただいています。現在の取組として、ミシン学習の補助、野菜作りの指導・補助、登下校時の安全指導、平和学習時に戦争体験についての話、調理学習の補助、町探検の引率、のこぎり、かなづちを使っての木工制作、放課後こども教室を行っている。また、祖子分区の面浮立についての話をいただいた。き、伝統文化の継承のため、子供たちによる面浮立の披露も行っていきます。

歴史や文化の継承として、先人から育み、継承されてきた文化財を後世へ伝えていくべく町指定文化財についても紙芝居等を活用して子どもたちへ伝えていきます。

今年、佐賀県では国民スポーツ大会（SAGA2024）が開催されます。スポーツへの関心を高め、スポーツを通じた健康増進に大きく寄与するものと考えています。そこで、ニュースポーツ講習会や出前講座を実施し、推進と普及を図り、子どもから高齢者まで広い世代の方々がスポーツを通じて交流できる各種イベントを計画していきます。

近年では男性の育児休業の取得推進もあり、これまで行っていたママサロンに加え、パパサロンとして育児休業を取得した男性に育児についてのテーマを設けたおはなし会を行っています。また、民生委員を通じて絵本を配布するとともに民生委員・児童委員と保護者が対面することにより、子育てに関する相談の機会を提供し、子育ては地域で行っていく「おせっかい」の精神でプッシュ型の支援を行っています。

子どもたちが誇れる郷土にできるよう社会教育委員の一員として、潜在的に支援をすべき方々と支援を行っていききたい方々を繋ぐ重要な役割を担っていることを誇りに思い、魅力ある街づくりを行っていきます。



子どもたちによる面浮立の披露

令和5年度県社協委連活動方針の取り組み状況調査結果について

総会において、令和5年度社協委連活動方針の調査結果を報告したところですが、その結果内容を掲載します。

◇令和5年度佐賀県社会教育委員

連絡協議会活動方針取組結果

1 社会教育委員は「地域の学校」「地域で育てる子ども」をテーマに、学校教育と社会教育の連携を進めよう。

【連携の具体的取組】

- ・社会教育委員会議での議論、報告、意見交換会等が開催された市町（佐賀市、唐津市、伊万里市、小城市、嬉野市、神埼市、基山町、上峰町、白石町、太良町）
- ・学校教育と連携を行った市町（鹿島市）

・今後連携を進展させるべく社会教育委員の先進地視察を行った市として鳥栖市がある。

2 ニューズレター年2回発行や社会教育委員の「見える化」を図り、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。

【活動の具体的取組】

- ・ニューズレターを社会教育施設に掲示した市町（佐賀市）
- ・社会教育事業への参加、支援活動を行った市町（小城市、有田町、

白石町）

- ・ニューズレターをを会議で紹介した市町（江北町、太良町）

3 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。

【意見交換の場の開催の有無】

- ・開催した市町（佐賀市、小城市、神埼市、大町町、白石町）
- ・令和6年度以降開催予定の市町（唐津市、鳥栖市、多久市、武雄市、嬉野市、玄海町）
- ・開催予定のない市町（伊万里市、鹿島市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、有田町、江北町、太良町）

※小城市は、令和6年3月に開催したことを確認したため、開催された市町に計上している。

4 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

【計画策定の有無】

- ・策定した市町（佐賀市、鳥栖市、鹿島市、小城市）
- ・策定予定の市町（嬉野市）

・策定予定のない市町（唐津市、多久市、伊万里市、武雄市、神埼市、吉野ケ里町、基山町、上峰町、みやき町、玄海町、有田町、大町町、江北町、白石町、太良町）

○開催や策定の予定がないと回答した市町におかれましては、実績のある市町を参考に令和6年度の活動が充実しますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記

今年の総会・基礎研修会には、多くの皆さまにお集まりいただき、感謝申し上げます。

今号では、基礎研修会の概要を掲載しました。トークセッションでは、社会教育委員の3人のパネリストの方がそれぞれの活動を行う中で、うれしかったことや学校教育と社会教育の連携を行う中の思いなどを熱く語っていただきました。楽しく、また、感心しながら話を聞くことができ、今後社会教育活動を行ううえで大変参考になるのではないかと思います。アンケートでも大変好評をいただきました。

きました。

さて、第11号から社会教育委員の皆さまに「わたしの社会教育委員活動」というテーマで、それぞれの委員の方の多方面での活動を執筆いただいています。

基本的には市町の輪番による執筆ですが希望される場合はご連絡ください。

佐賀県社会教育委員連絡協議会事務局（佐賀県県民環境部まなび課）

〒840-8570（住所不要）

TEL 0952（25）7313

Fax 0952（25）7406

✉ manabi@pref.saga.lg.jp

.....